



2022年3月期第2四半期

# 決算説明会資料

2021年11月18日

株式会社アイ・ピー・エス

証券コード 4390

## 企業理念

# OPEN DOOR

私たちは、いまだ誰も突破できていない障壁のある生活に密着した分野で、誰よりも先んじて事業機会を創造し、事業を展開し、産業構造を変え、あるべき社会を実現してまいります。

当社グループでは、フィリピンにおいて、最先端の通信技術を活用した通信サービスを提供することにより、フィリピン経済の発展に貢献するため、積極的な投資を行い、事業の拡大を図っております。



## 1 | Executive Summary

## 2 | 2022年3月期第2四半期 決算概況

## 3 | 各事業の方向性と進捗

- (1) フィリピン通信事業  
(海外通信事業 + フィリピン国内通信事業)
- (2) 国内通信事業
- (3) 医療・美容事業

# 1. Executive Summary



## 2022年3月期第2四半期 決算概要

売上高：4,076百万円      営業利益：828百万円      営業利益率：20.3%  
(前年同期比20.9%増)      (前年同期比32.7%増)

## 2022年3月期第2四半期の事業推移

1. 海外通信事業は、C2C回線の提供拡大により増収。
2. フィリピン国内通信事業は、法人向けインターネット接続サービスが横ばいに推移するものの、C2C回線の提供により、増収・増益。
3. 国内通信事業は、コールセンター向けトータルソリューションが拡大し、在宅勤務などの増加により通信トラフィックが引き続き増加したことにより、増収・増益。
4. 医療・美容事業は、前期はコロナウイルス感染症の影響を受けたが、今期はコロナウイルス感染症対策を徹底し、安全な運営を行うことによりレーシックが増加し、大幅な増収・増益。

## ビジネス

1. フィリピン国内通信網の拡充を図るため、フィリピン国内海底ケーブル敷設に関する海洋調査の実施。
2. フィリピンでの無線ブロードバンドサービス提供に向けた事業活動を推進。
3. フィリピンの通信トラフィックの増加に対応した事業展開を推進。
4. コロナウイルス感染症に対応した運営の確立を図り、医療・美容事業などで成果。

## 2 | 2022年3月期第2四半期 決算概要

## 【2022年3月期第2四半期 連結実績】

(単位：百万円)

	第2四半期				第2四半期累計			
	2021年3月期	2022年3月期	前年同期比	%	2021年3月期	2022年3月期	前年同期比	%
売上高	1,559	2,115	556	35.7%	3,373	4,076	703	20.9%
営業利益	299	458	158	53.1%	624	828	204	32.7%
経常利益	283	439	155	54.6%	570	820	250	43.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	198	300	101	50.8%	392	518	125	32.1%

- 売上高：各セグメントにおいて売上高が前年同期を上回り、前年同期比20.9%の増加。
- 営業利益：国内通信事業及び医療・美容事業などが増益になったことにより、前年同期比32.7%の増加。
- 経常利益及び親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益：営業利益の増加に伴い、それぞれ、前年同期比43.9%、32.1%増加。

# 事業セグメント別経営成績



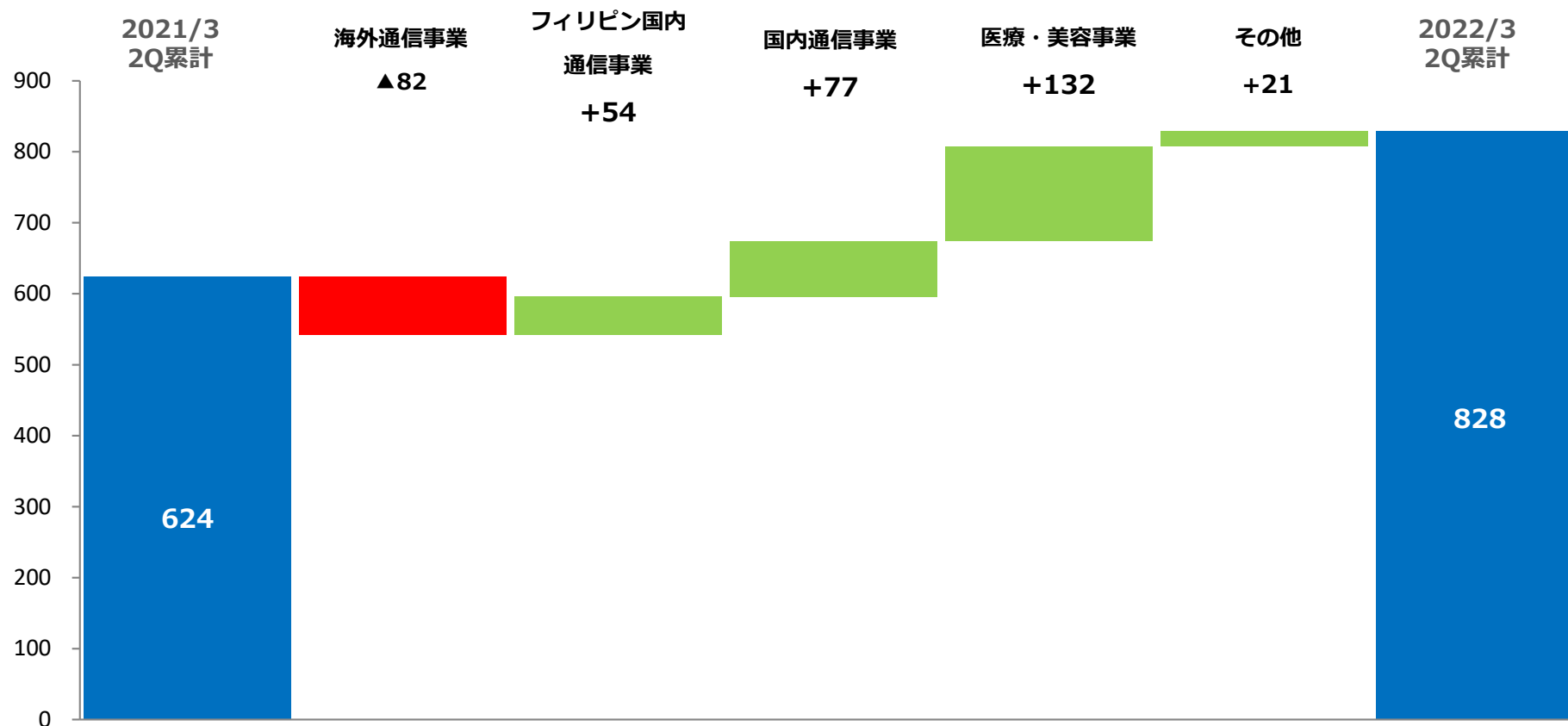
(単位：百万円)

		2021年3月期 2Q累計	2022年3月期 2Q累計	前年同期比	%
海外通信事業	売上高	755	950	195	25.8%
	営業利益	265	183	▲ 82	▲ 30.9%
フィリピン国内 通信事業	売上高	480	562	82	17.2%
	営業利益	77	131	54	69.9%
国内通信事業	売上高	1,878	2,024	145	7.8%
	営業利益	287	365	77	27.0%
医療・美容事業	売上高	213	522	308	144.0%
	営業利益	23	156	132	574.2%
その他	売上高	44	16	▲ 28	▲ 62.9%
	営業利益	▲ 29	▲ 7	21	▲ 74.1%
合計	売上高	3,373	4,076	703	20.9%
	営業利益	624	828	204	32.7%

# 営業利益増減（前年同期比）

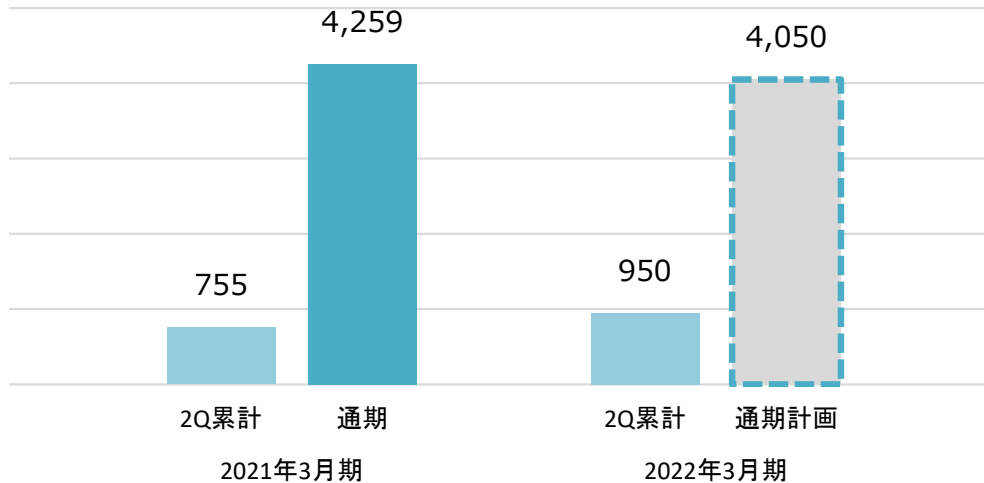


フィリピン国内通信事業、国内通信事業及び医療・美容事業が増益に寄与

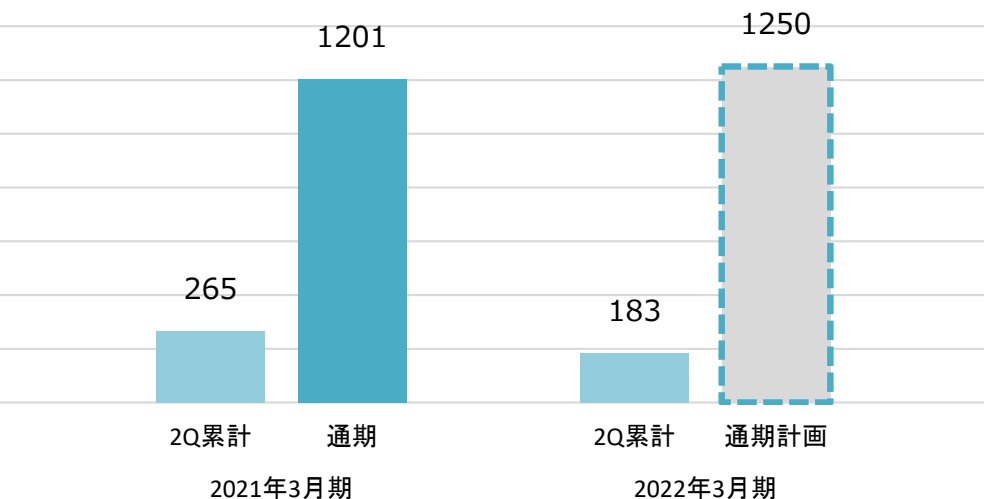




売上高(百万円)



営業利益 (百万円)

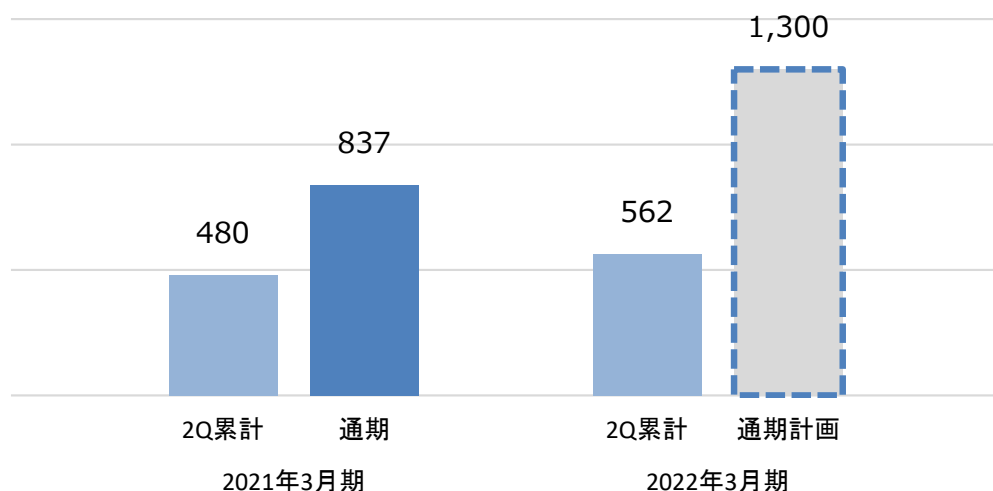


通信事業者として、さらなる事業拡大を図るため、C2C回線の提供を推進。

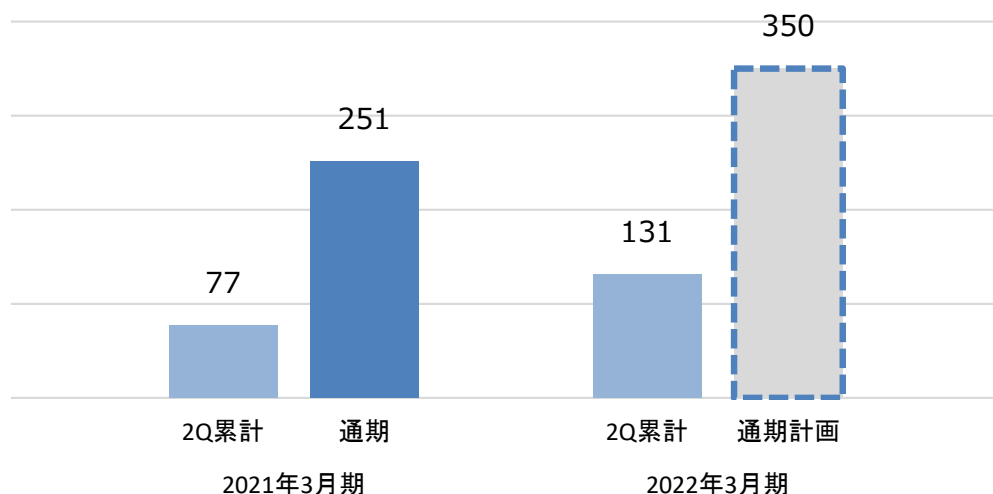
1. C2C回線の提供の拡大  
国際通信回線において、フィリピンで第3番目のキャリアとして、CATV事業者を中心に積極的に提供を拡大。
2. キャリアズキャリア案件の提供  
昨年も提供した規模の大きな通信事業者向けのキャリア（キャリアズキャリア）案件の提供が第4四半期に提供予定。

今後の海外通信事業は、CATV事業者などへのC2C回線などの国際通信回線の積み上げ型の売上に、昨年第3四半期計上案件の5年にわたる売上計上や毎年急増しているフィリピンの通信トラフィックに応じて追加されるキャリアズキャリア案件の売上が計上される見込。

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



## 1. コロナウイルス感染症蔓延の影響を受け、法人向けインターネット接続サービスの新規獲得の伸びが鈍化。

マカティ市での法人向けインターネット接続サービスの積極的な営業活動を行うも、引き続き在宅勤務が続くことから、営業活動に大きな影響を受けている。

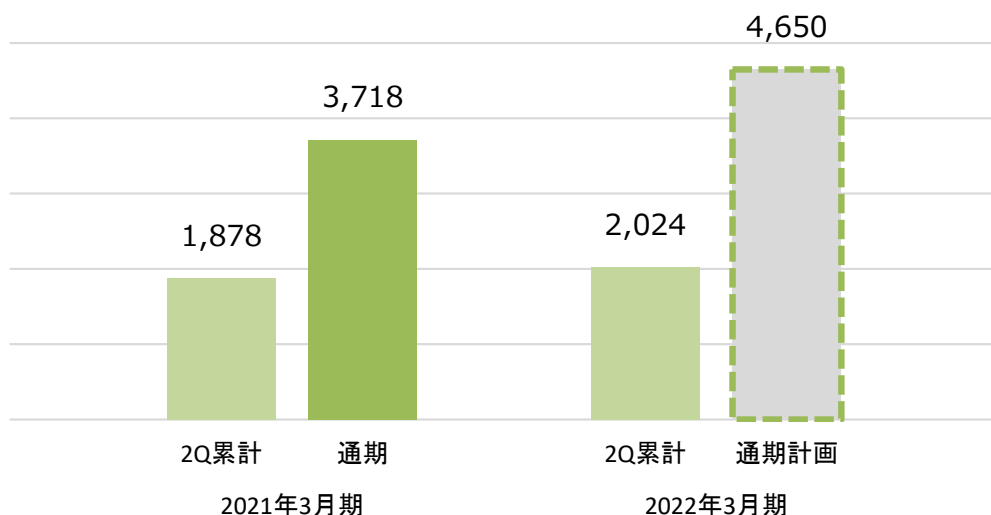
## 2. フィリピン国内通信網の整備

- (1) フィリピン国内海底ケーブル敷設のための海洋調査の実施
- (2) ミンダナオ島、パナイ島などの地方の光ファイバー網の敷設の推進

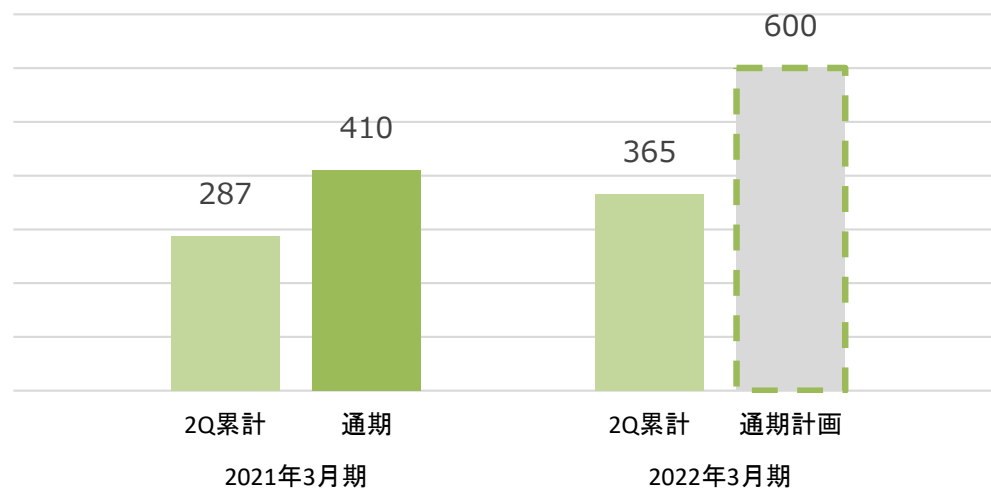
## 3. 5Gサービスの提供の推進

InfiniVAN社とWeLink社との提携

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



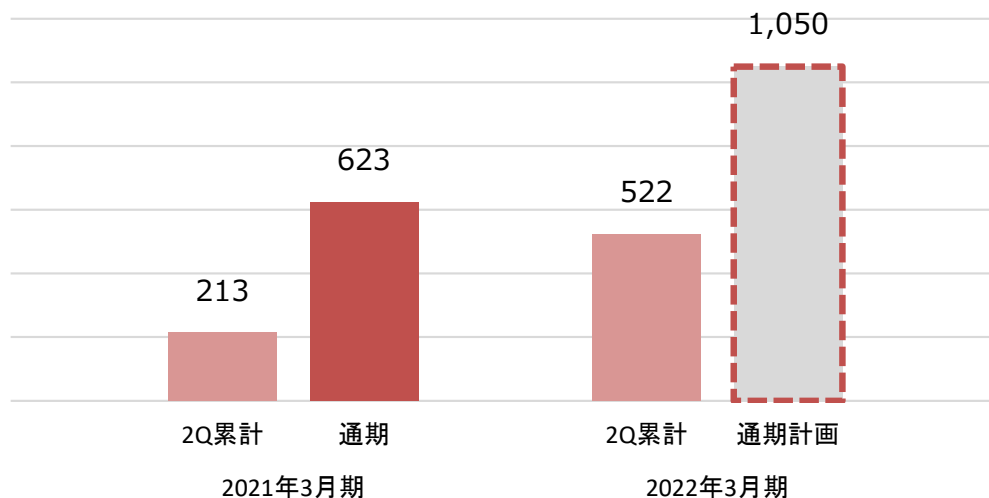
コールセンターシステム、格安通話サービスを組み合わせたコールセンター向けトータルソリューションが好調。

コールセンターシステムAmeyoJのライセンス料の伸長や、AmeyoJと格安通話サービスである秒課金サービスを合わせたコールセンター向けトータルソリューションの売上が拡大。

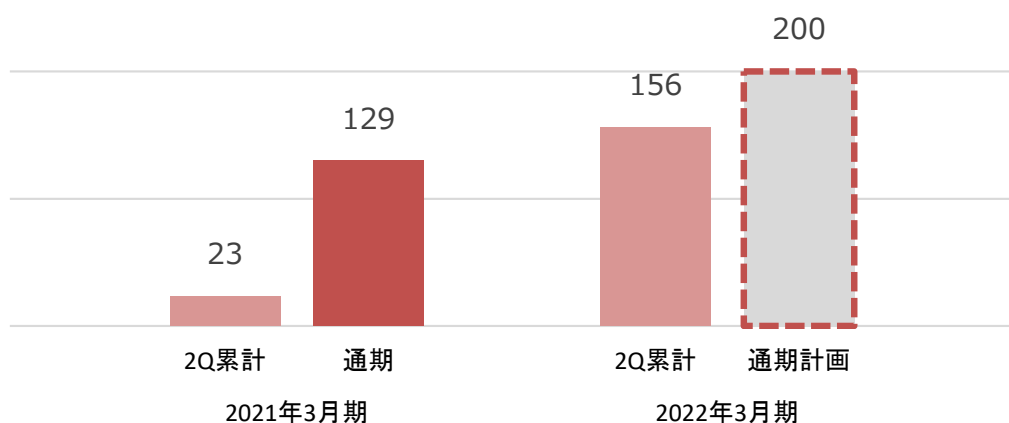
コロナウイルス感染症の影響による引き続き在宅勤務やWeb会議等により、通信トフィック需要が増加。

市場環境の変化に応じたサービスの提供により、新規顧客開拓を進めることで事業拡大を図る。

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



コロナウイルス感染症対策を徹底し、安全な運営を行うことにより、Bonifacio Global Cityに昨年開設した第3院を中心にレーシック施術が増加。

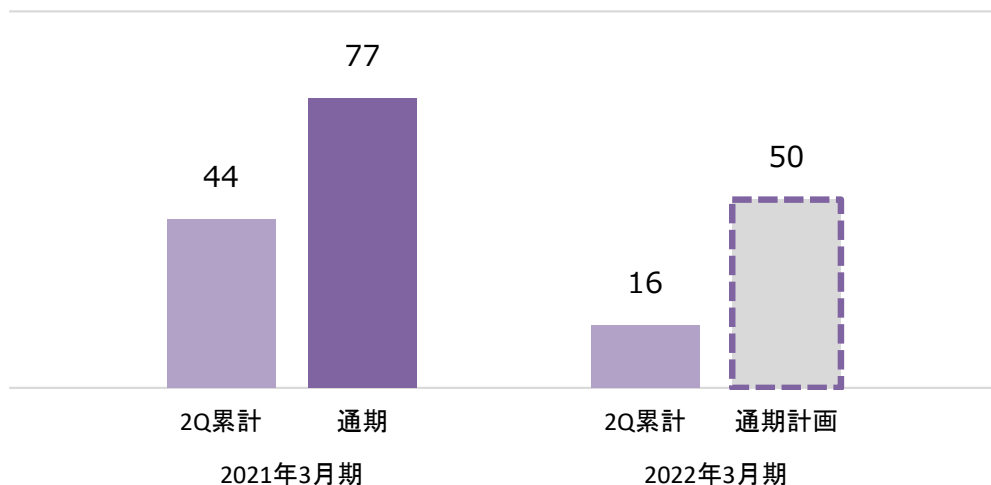
昨年はロックダウンの際には、3院とも一時休業したものの、マニラ首都圏がロックダウンとなった場合でも、ソーシャルディスタンスを考慮し、安全な運営を行うことができたようになった。

今後は、日本の画像診断を使った予防医療としての人間ドックセンターの開設を検討中。

# その他（旧 在留フィリピン人関連事業）



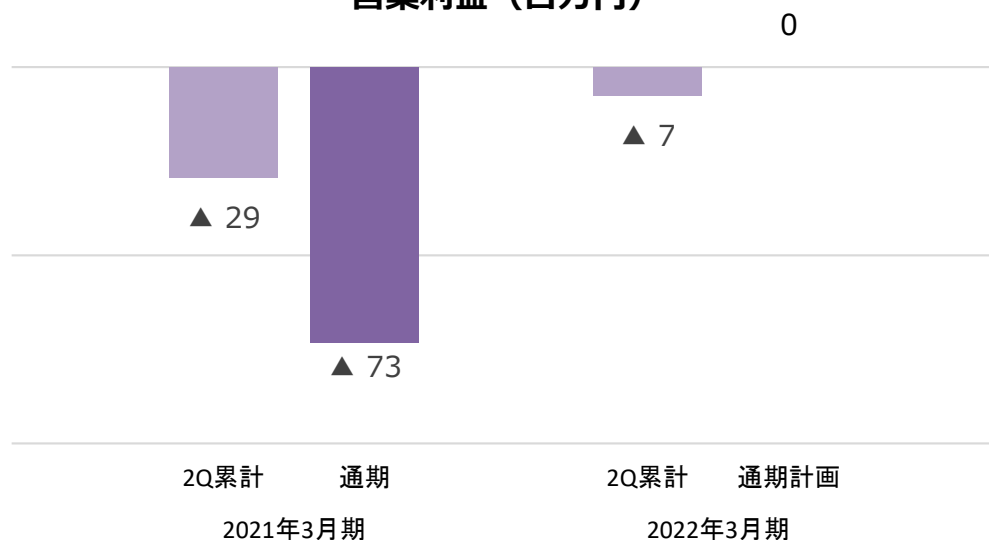
### 売上高（百万円）



昨年までの報告セグメントである「在留フィリピン人関連事業」は、主力事業である人材関連事業（人材紹介業・人材派遣業）を2021年1月1日付で、事業譲渡したことから、重要性が低下したため、報告セグメントから除外しております。

在留フィリピン人に送金の斡旋などを行っております。

### 営業利益（百万円）



# 連結貸借対照表（サマリー）



（単位：百万円）

資産の部				負債・純資産の部			
	2021年3月期末	2022年3月期 2Q末	増減		2021年3月期末	2022年3月期 2Q末	増減
流動資産	7,665	8,152	486	流動負債	3,361	3,878	516
現金及び預金	3,625	3,234	▲ 391	買掛金	701	522	▲ 179
売掛金	1,091	1,332	241	借入金	518	573	55
リース投資資産	2,327	2,737	409	その他	2,141	2,782	641
その他	620	847	226	固定負債	1,645	1,722	77
				長期借入金	1,431	1,486	54
				その他	214	236	22
固定資産	4,096	4,951	855	負債合計	5,007	5,601	593
有形固定資産	2,510	3,318	808	純資産	6,754	7,503	748
無形固定資産	829	931	102	株主資本	5,332	5,739	406
投資その他資産	755	701	▲ 54	累積包括利益	▲ 26	139	166
				新株予約権	210	207	▲ 3
				非支配株主持分	1,238	1,417	178
資産合計	11,762	13,104	1,341	負債・純資産合計	11,762	13,104	1,341

# 2022年3月期 通期業績予想



(単位：百万円)

	2021年3月期 通期実績	2022年3月期			
		通期予想	前年比 (%)	第2四半期実績	達成率 (%)
売上高	9,515	11,100	16.7%	4,076	36.7%
営業利益	1,921	2,400	24.9%	828	34.5%
経常利益	2,187	2,400	9.7%	820	34.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,487	1,650	11.0%	518	31.4%

今期の海外通信事業においては、C2C回線提供の積み上げに加え、昨年第3四半期計上案件の5年にわたる売上計上や第4四半期にキャリアズキャリア案件の売上が計上されます。

また、事業の進捗状況に差異はあるものの、概ね計画通りの進捗のため、通期業績予想は変更しておりません。

# 2022年3月期 セグメント別通期業績予想



(単位：百万円)

セグメント	2021年3月期実績	2022年3月期		
		通期予算	2Q累計実績	達成率
<b>売上高</b>	<b>9,515</b>	<b>11,100</b>	<b>4,076</b>	<b>36.7%</b>
海外通信事業	4,259	4,050	950	23.5%
フィリピン国内通信事業	837	1,300	562	43.3%
国内通信事業	3,718	4,650	2,024	43.5%
医療・美容事業	623	1,050	522	49.7%
その他	77	50	16	33.2%
<b>営業利益</b>	<b>1,921</b>	<b>2,400</b>	<b>828</b>	<b>34.5%</b>
海外通信事業	1,201	1,250	183	14.7%
フィリピン国内通信事業	251	350	131	37.5%
国内通信事業	410	600	365	60.9%
医療・美容事業	129	200	156	78.1%
その他	▲73	0	▲7	—
<b>営業利益率</b>	<b>20.2%</b>	<b>21.6%</b>	<b>20.3%</b>	<b>—</b>
海外通信事業	28.2%	30.9%	19.3%	—
フィリピン国内通信事業	30.1%	26.9%	23.3%	—
国内通信事業	11.0%	12.9%	18.0%	—
医療・美容事業	20.8%	19.0%	29.9%	—
その他	▲95.1%	0.0%	▲45.9%	—



### 3 | 各事業の方向性と進捗

- (1) フィリピン通信事業
- (2) 国内通信事業（日本）
- (3) 医療・美容事業

各事業の方向性について、海外通信事業とフィリピン国内通信事業は関連性が高いため、まとめてフィリピン通信事業として説明いたします。

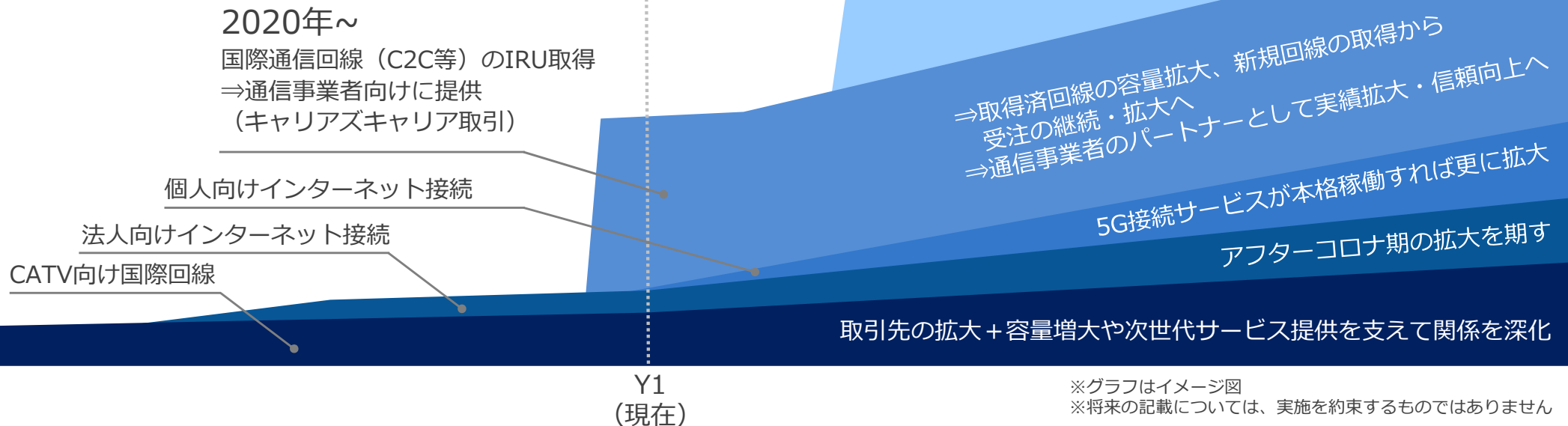


# (1) フィリピン通信事業



## ①取引先セグメント別、成長のロードマップ

大型パートナーシップを積み重ね、フィリピン通信の発展へ媒介役となりながら、様々なビジネスの展開・拡大を目指す



※グラフはイメージ図  
※将来の記載については、実施を約束するものではありません

# (1) フィリピン通信事業

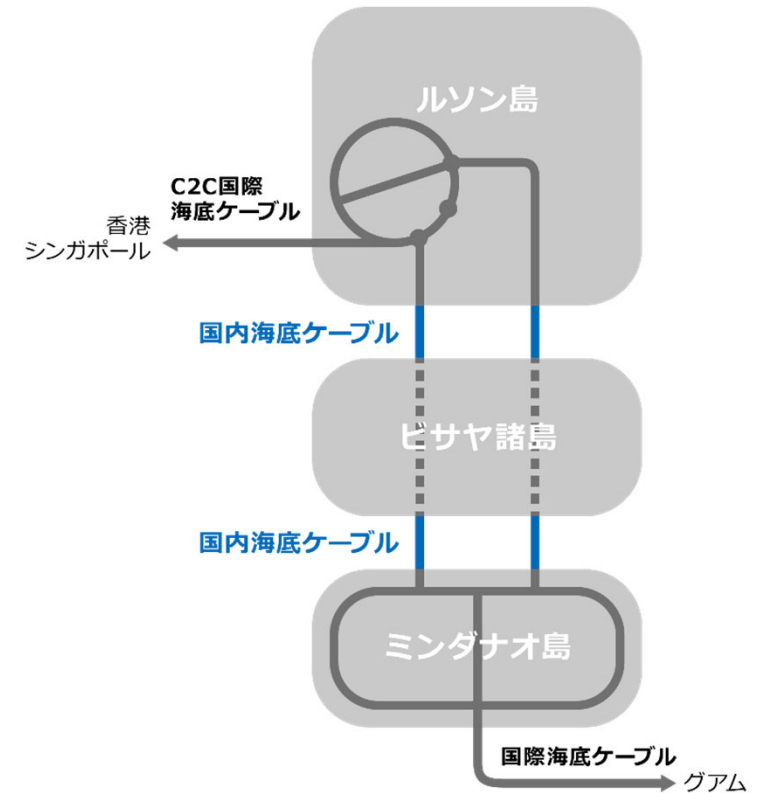


## ② フィリピン国内海底ケーブル建設（海洋調査が進捗。）

**海洋調査の進捗はほぼ計画通り。  
敷設完成は2022年末を目指す。**

### フィリピン国内での海底ケーブルについて

- 当社子会社のInfiniVAN, Inc.は、フィリピン国内の通信事業者2社と共同で国内の海底ケーブルシステムの建設を計画し、海洋調査を実施中です。新型コロナウイルス感染症の影響を受けているものの、ほぼ計画通りの進捗状況で、2022年末の敷設完成を目指し、協議中です。
- この敷設により、ルソン島からビサヤ諸島、ミンダナオ島を結ぶフィリピン国内を貫通するバックボーン回線を所有することができます。また、このバックボーン回線と、別途構築しているミンダナオ島やパナイ島の回線などを繋ぐことにより、当社グループの提供サービスのフィリピン国内での人口カバー率は96%に達する見込みです。
- このバックボーン回線の敷設により、これまでC2C回線の提供が難しかった地方のCATV事業者や通信事業者にもサービスの提供できることになることから、さらなる事業拡大を図ることが可能になります。



使用中の海洋調査船



## ③5Gアクセスサービス（WeLinkと業務提携。実証実験へ。）

**ミリ波を用いた5Gアクセスサービスの提供実績と技術力を持つWeLinkと、提携。フィリピンでの、本格的な速度・品質でのサービス実現を目指し、実証実験を急ぐ。**



[実証実験や商用サービスでの構想]

**上り下り共に500mbpsや700mbpsなど、高解像度の動画の同時視聴も可能なインターネット速度を視野**  
：WeLinkでは商用提供の実績有

**InfiniVANが敷設済の光ファイバー網を活用し、アンテナを設置**  
：マニラ首都圏内の鉄道沿いの駅の端や、駅間数百メートル毎 など

**大容量・高速インターネットサービスを求める個人や法人に提供**  
：オルティガスセンターや、近郊住宅地で実施

**今も速度や品質で劣るサービス以外に選択肢がない、工業団地の企業に提供**  
：適切な間隔でアンテナを設置し、メッシュネットワークを構成

**遮蔽物には、適切なネットワーク構成で対応**  
：ガラス、コンクリート、木などに対策

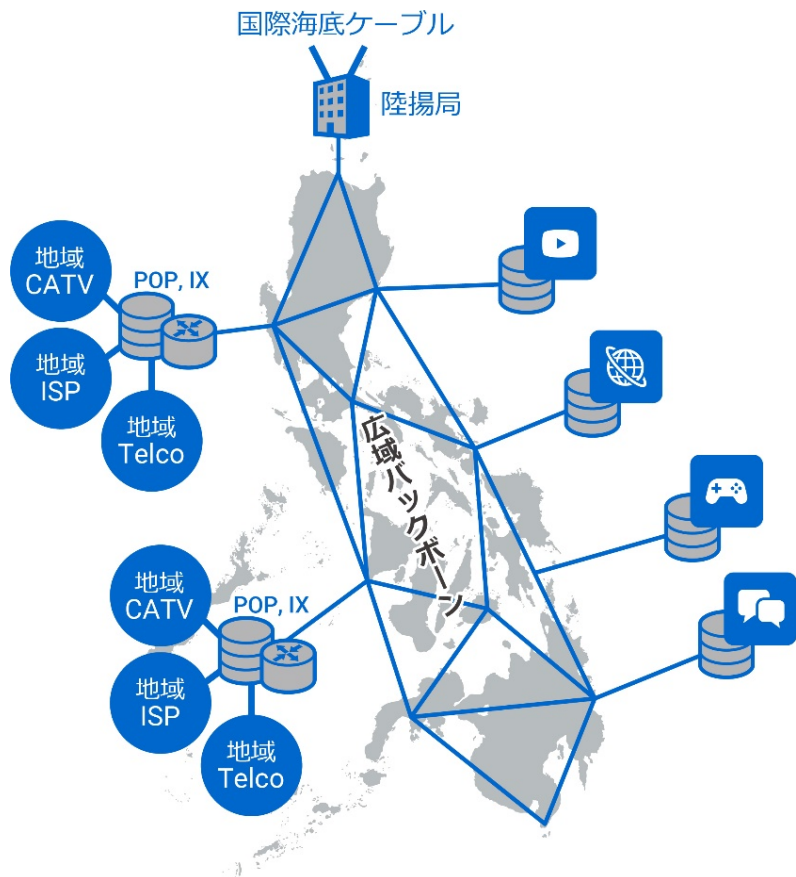
**雨には、WeLinkの独自アルゴリズムで対応**

**先行して割当て済の周波数帯の活用なども並行して検討**

## ④国内CDNの構築（NTCが陸揚局建設などを許可。OTTとの協業へ。）

フィリピンの国家通信委員会（NTC）が、InfiniVANによる、長く寡占状態だった陸揚局などの建設・管理・保守への参入を、許可。  
OTT等との協業や、大容量・高速通信に適した通信インフラ（CDN）の整備や投資を進める。

[フィリピンの、5Gサービスに適した通信インフラのイメージ]



InfiniVANが陸揚局を、建設・所有する。  
OTTの国際海底ケーブルを、収容する。



国際海底ケーブル、InfiniVANの国内中継回線、OTTのコンテンツサーバーが、接続される。  
他の事業者が中立的に接続できるIXやPoPを、設置する。



他の地域にもコンテンツサーバー、IX、PoPを、設置する。  
大容量コンテンツを効率的に扱う、通信インフラ網へ。

- ・ 高度な5Gサービスの実用化
- ・ 当社グループの他社との差別化
- ・ フィリピンの国や地域の、SDGsや経済発展に寄与

### コールセンター事業者向けソリューション（高評価が持続。）

**エンドユーザーの行動が多様化。クラウド・AIなど技術の進歩により、コールセンター事業者の、ユーザーと接触しそれを管理するシステムは、複雑化が進行。当社のオールインワンの通信インフラを提供する力を磨き、他社との差別化を強化。**

日本の国内通信事業では、コールセンター事業者など向けの、自動架電や顧客管理を統合するシステム（AmeyoJ）と、格安通話料金サービス（秒課金フリーダイヤルサービス）をパッケージした、トータルソリューションが引き続き好調に推移しております。



- AmeyoJは、他社のシステムと連携するAPIを圧倒的に多く持ち、早期導入が可能。
- このAmeyoJに、秒単位で課金するフリーダイヤルサービスを組み合わせ、営業とエンジニアが一体となって最適なプランをコンサルティング提案することにより、新規顧客の開拓を拡大してまいります。



## 医療インフラ運営（レーシックが回復。人間ドックセンター開設を検討。）

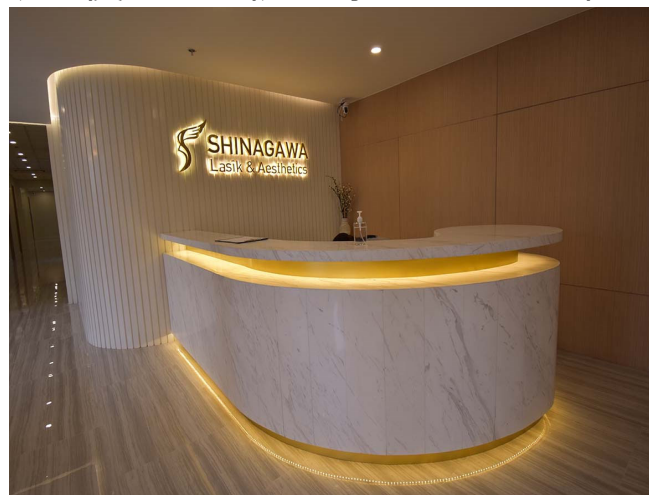
経済発展がもたらす力強い需要により、コロナ禍の中だが、レーシック施術数が過去最高ペースで推移。

フィリピンの成長に必要な次の医療インフラとして、人間ドックセンターの検討を進める。

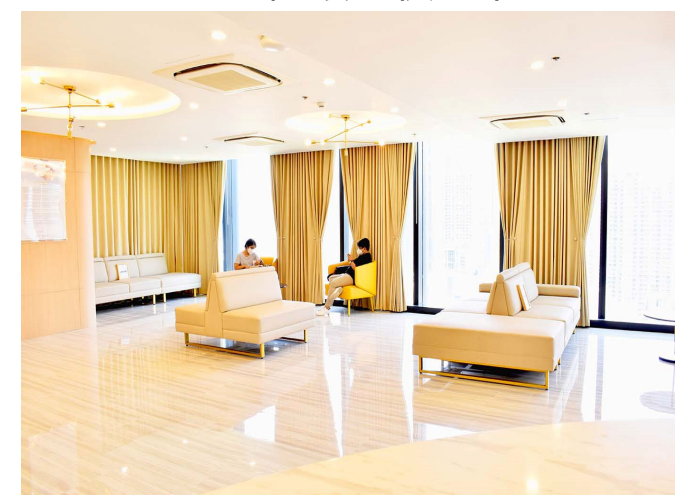
- フィリピンでの新型コロナウイルス感染症の影響が続き、一時ロックダウンなどの外出制限が強化されるなど厳しい環境下におけるオペレーションを確立し、顧客やスタッフの安全を第一にした運営を徹底することにより、昨年ボニファシオグローバルシティ（BGC）に開院した眼科専用の第3院を中心にレーシック施術が回復しております。
- 今後の拡大に向け、日本の画像診断を使った予防医療としての人間ドックセンターの開設を検討中。



エントランス



受付



待合室

※写真はすべてBGC院



会社名  
(英文社名)

株式会社アイ・ピー・エス  
IPS, Inc.

設 立

1991年10月

本社所在地

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル8階

事業内容

海外通信事業：フィリピンのCATV事業者等に国際通信回線を提供

フィリピン国内通信事業：フィリピン国内での法人向けISPの提供

国内通信事業：日本国内での通信サービスの提供

医療・美容事業：フィリピンでの医療・美容サービスの提供

グループ企業

連結子会社

KEYSQUARE INC.

Shinagawa Lasik & Aesthetics Center Corporation

InfiniVAN, Inc.

ISMO Pte. Ltd.

- ▶ 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- ▶ 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- ▶ 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- ▶ 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

《IRに関するお問い合わせ先》

株式会社 アイ・ピー・エス

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1  
東劇ビル8階

TEL: 03-3549-7719 FAX: 03-3545-7331

